

2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 経営学部
「英語重視方式」

【選考講評】

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際経営学科	74	58	39

(2) 入試趣旨

立命館大学経営学部の AO 選抜入学試験(英語重視方式)は、本学経営学部国際経営学科への入学を第 1 志望とし、「経営学に強い関心を持ち、高い意欲と目的意識を持って学習を行おうとする者」で、かつ「学部の掲げる人材育成目的・教育目標を理解し、立命館大学経営学部国際経営学科での勉学を強く志望する者」を対象に、2015 年度入試までの「国際ビジネス英語重視方式」を改め、2016 年度入試から英語運用能力により重点をおいた入試選抜として実施しています。したがって、本 AO 選抜入学試験では、高等学校在学中の学習、もしくは各種の体験や活動経験を通じて高い英語運用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけている人、それらを基礎として、入学後は、経営学部国際経営学科での学修と、各種留学制度等を利用し、積極的に海外での学びを志向するとともに、卒業後、国際的視野で活躍するキャリアビジョンと可能性を持つ人を受け入れることを狙いとしています。

本入学試験では、高等学校在学中に高い英語運用能力を身につけ、入学後は、各種留学制度等を利用し、積極的に海外での学びが実現できることを重視する観点から、2018 年度入試において、英語外部資格試験スコアの出願資格を変更しました。募集人数は、2017 年度の 10 名から、2018 年度は 13 名、2019 年は 15 名、2020 年度は 17 名と拡大してきました。

試験実施の結果、募集人数 17 名に対し、志願者数は 74 名となり、第一次選考合格者数は 58 名、第二次選考(最終)合格者数は 39 名となりました。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

出願者は、①高等学校が公式に発行する評定平均値の記載された調査書、②出願者自身が作成する学習に対する自己分析などを述べた出願者申告書、③高等学校での活動を踏まえて経営学部国際経営学科で入学後に学びたいテーマや大学卒業後のキャリアビジョンについて述べた志望理由書、④語学検定試験のスコア証明書または合格証の 4 点を提出することになっています。第一次選考では、入学試験要項の選考方法に記されたとおり、これらの出願書類に基づき審査を行いました。

(2) 第二次選考

第一次選考の合格者に対し各 15 分の面接試験を実施しました。面接試験では、出願書類(主に申告書、志望理由書等)に基づく質疑を、日本語および英語にて行

いました。

3. 出題の意図と評価のポイント

(1) 第一次選考

第一次選考では、提出された出願書類(調査票、出願者申告書、英語外部資格試験証明書および志望理由書)に基づき、①高校在学中の正課(学習面)と各種活動経験・国際性、②英語運用能力、③志望動機について選考を行いました。

①については、調査票と出願者申告書をもとに、高校在学中の正課(学習面)における学習姿勢や成績、課外における各種委員会、部活動、地域活動、国際交流活動、各種表彰を評価しています。②については、英語外部資格試験証明書にもとづいて評価しています。③については、本学経営学部国際経営学科で学ぶ意欲や志望動機、および大学卒業後のキャリアビジョンを評価しています。これらについて互いに関連つけながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかを評価のポイントとしました。

(2) 第二次選考

面接試験では、高等学校在学中の学習と各種活動経験、国際経営学科を志望した動機・入学後に学びたいテーマ、日本と海外での経営学分野に関する学習計画、国際的視野でのキャリアビジョンについて、それぞれを関連つけながら論理的かつ説得的に説明されているかどうかなどを総合的に判断しました。高等学校在学中の学習と各種活動経験以外は、英語を交えた質疑を行い、その応答の内容によって英語運用能力を評価しました。

4. 解答状況

(1) 第一次選考

出願者申告書や志望理由書に関しては、高等学校在学中の体験や活動経験を志望理由と結びつけて書いている受験生が多数でした。また、既に長期もしくは短期の海外留学、英語による討論会や模擬的な国際会議に参加した経験を有している受験生も数多くいました。外国の学校での学習経験があることや、グローバルなルーツをもちながら日本国内の学校で学習経験をもつ受験生もみられました。

第一次選考において主に可否を分けたポイントは、3つあります。

- ① 高等学校在学中の学習内容や、各種活動の体験・国際性が高校生として優れた水準であるか。外国の学校で学習経験がある場合も、それによって英語力を含む基礎学力が養われているか。
- ② 入学後に、各種留学制度等を利用し、海外での学びが実現できる英語運用能力を有しているか。
- ③ ①を礎とし、各自の語学能力を使って立命館大学経営学部国際経営学科で何を学びたいのか、さらに、国際経営学科での学びを通じ、どのようなキャリアビジョンを思い描いているのかが論理的かつ説得的に説明されているか。

一部の受験生は、アピールできる豊富な国際経験や非常に高い語学検定試験のスコアを持っているにも関わらず、本学経営学部国際経営学科のカリキュラムを十分に理解し、自らの学びや、将来のキャリアビジョンに結びつけて説明できていませんでした。他方で、オープンキャンパス(web)等の大学企画に参加したり、経営学部の教

員の専門分野や教育内容をリサーチしたりしたうえで、将来のキャリアビジョンを踏まえて、経営学部での学びをうまく設計できていた受験生もいました。海外留学の経験がなくても、また、提出された語学検定試験のスコア等が出願資格で記された水準程度であっても、上記の点が志望理由として明確であれば、第二次選考の対象としました。

(2) 第二次選考

面接試験では、出願書類(主に出願者申告書、志望理由書等)についての質疑に対して、適切な返答ができるかどうかを確認しました。国際経営学科を志望した動機・入学後に学びたいテーマ、日本と海外での経営学分野に関する学習計画、国際的視野でのキャリアビジョンについての英語による質疑においても、レベルが全般的に高かったです。受験生が想定していた視点以外からの質問をした際には、面接に備えて準備してきた回答だけでは柔軟に対応できず、返答に困る受験生もいましたが、再度英語で質問したり、部分的に日本語での質疑も交えたりしながら対応できたと思われます。

最終的には第一次選考と第二次選考を合わせた総合的評価の高かった受験生を合格としました。

5. 次年度受験生へのアドバイス

志望している学部が「経営学部」、学科が「国際経営学科」であることを強く意識していただきたいと思います。本学経営学部では、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する経営学」という教学理念にもとづく教育研究を展開しており、国際経営学科では、在学中に「国際経営を教育研究し、高い教養と経営学の専門知識をもち、国際経営に関する問題発見ならびに問題解決能力、広い視野で異文化を理解し尊重する能力、国際社会で必要とされる相互理解能力を身につけ」たうえで、『地球的視野』にたって、国際ビジネス社会において活躍すること」を期待しています。このような目標に向かって、立命館大学と海外の大学での学びを相互に有機的に結びつけた計画性を持ち、相乗的な学習成果をもとに国際ビジネス社会において活躍するキャリアビジョンを描いていただきたいと思います。

そのためには、まずは高等学校における学習を通じて、高等教育における基礎学力をしっかりと身につけると同時に、各種の体験や活動経験を通じて高い英語運用能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力を身につけていることが肝要です。確かな基礎学力と各種能力に立脚して、大学での国際ビジネスでの活躍を意識した学びや、将来のキャリアビジョンについて考えてみてください。

本 AO 選抜入学試験は、国際経営学科を対象とした英語重視方式ではあるものの、経営学部は英語を中心に学ぶことを目的とした学部・学科ではありません。つまり、経営学部における英語は国際的な企業の活動やビジネスの動向を知るための、かつ、各自が描くキャリアビジョンにおいてグローバル企業の最前線で活躍するための『道具(ツール)』であり、単に「国際＝英語」ではないということです。したがって、志望理由としては英語が好きであるということや、留学体験や高校での英語学習のことだけに終始したり、入学できたら大学では「こんなことがしたい」「あんなことがしたい」といったことを列記したりしているだけでは不十分であり、高等学校在学中の学習内容や様々な体験もしくは活動経験を踏まえ、各自の語学能力を使って経営学部国際経営学科のなかで

何を学びたいのか、また、将来、どのようなキャリアビジョンを思い描いているのかを互いに関連つけて説明することが重要だということです。そのためには、日頃から様々な企業がどのような活動や事業を展開しているのかに関心を持ち、身の回りの物事、新聞やニュースの報道について思いを巡らせ、疑問に思ったことを調べる習慣を持つことが大切です。加えて、特に第一次選考(書類選考)では、そのような習慣を通じて習得または蓄積された世の中の出来事や知識を自分自身の言葉で簡潔に、かつ、論理的にまとめる力がとても大切になります。したがって、基礎学力を反映する日本語の文章能力も本入学試験では試されるということを忘れないで下さい。

また、本 AO 選抜入学試験は英語の運用能力を重視したものであり、特に第二次選考の面接試験では、英語での質疑応答に対応できる語学運用能力の有無が合否を判断する際の要点になっているのは事実です。そのためには、各語学検定試験のスコアの向上はもちろんですが、それらに加え、リスニングやスピーキングの力を高めることを意識した英語学習への取り組みが求められます。ただし、第二次選考の面接試験では、必ずしも流暢に英語でのコミュニケーションが取れることを要求しているわけではありません。ここで重要なことは「経営学部国際経営学科で学ぶにあたり、自分の考えを英語で説明したり、質疑に答えたりする力」の有無であり、詰まりながらも、英語で自分の考えを説明したり、質疑に答えたりする能力になります。こうしたことから、本 AO 選抜入学試験の合格者は、留学経験者や語学検定試験の高得点者ばかりということではなく、留学経験のない受験生もいることも参考にしていいただければと思います。

以上